

新ブレイクスルー思考による戦略特別委員会

— 中間報告 —

委員長 大谷和夫

〔1〕戦略特別委員会発足の経過概要

「平成維新を実現する都民の会」として、どのようにして平成維新を実現するかはかねてからの課題であり、一昨年も「理念戦略委員会」が結成され、生活者通信No.9及びNo.10に報告されているが、必ずしも満足な結果が得られていない。これは普通の分析的手法では、議論が発散してしまい、結論を得るのが困難であるからと思われる。

たまたまニュー・コンセプトを創造する7つの原則として「新・ブレイクスルー思考」なる図書が、ジュラルド・ナドラー、日比野省三両氏の共著、海辺不二雄監訳で、ダイヤモンド社より昨年発刊された。これに注目して、この手法で解決できないかと考え、先ず監訳者の海辺氏に本年5月の運営会議で1時間の紹介講演をお願いした。更に望月幹事にも原本を読んでいただき、8月の運営会議で今後の対応を発表していただいた。

その内容は、「書籍による知識だけでは適応は不可能に近い。但し適切な指導者が不可欠で、条件が揃えば大きな成果が期待できる」ということであった。これに対して種々討論された結果、平成維新実現戦略の確立を目指して提案者（大谷）にリーダーシップをとるよう要請があった。

大谷より海辺氏と交渉した結果を9月の運営会議で報告し、下記メンバーで特別委員会を発足することが決定した。但し種々の事情から10月下旬スタートすることとした。

手法指導者：海辺不二雄（経営コンサルタント・ワークデザイン指導者）。

委員長：大谷和夫。委員：治田桂四郎、杉原健児、望月忠雄、板橋光紀、河登一郎。

〔2〕委員会活動状況

まず第1回委員会を10月27日14時30分より17時30分までBIG ECHO渋谷駅前店（カラオケ・ボックス）で開催し、ワーク・デザイン（以下WDと略）の第1手順である「問題の選定と本質の明確化」に取組み、全員で討議しながらWDシート1として下記項目を大判の模造紙に書き込み作業を行った。

（テーマ名）、（解決したい事柄の要点、背景、いきさつ）、（問題を取り上げたきっかけ）、（問題解決の立場、体制及び責任者）、（達成すべき最低目標）、（スケジュール、その他の制約）、（中核となる重点的な対象部分）、（その他考慮したい特記事項）

この結果は後に〔3〕で示すが、第2回から第5回までの委員会の予定もきまり、第2手順の「固有の目的と条件の決定」の（1）「目的の明細の規定」、（a）「目的の系列化」として、先の「中核となる重点的な対象部分」から「目標の一本化」を選び、目的の展開を図ることとした。

第2回委員会は11月6日同時刻、同所で行った。生憎指導員が急病にかかり、委員長と電子メールでやりとりして指導を仰いだ。一応後に〔4〕で示すように「目的の系列化」を19項目上位の目的まで作

成し、「評価尺度の決定」を行った。

第3回委員会は11月12日同時刻、同所で行ったが、「目的の系列化」から「評価尺度の決定」は途中を飛ばしている指摘され、手順に従って丹念に「目的の水準の決定」、「目的の詳細規定」、「対象範囲の確認・決定」を行い、あらためて「価値の確認」「評価尺度の設定」を行う。「目的別部分システムへの分割と選定」は今回は省いて、いよいよ第3手順「理想的システムの開発」に入り、まず「目的の除去」に挑戦した。議論百出で時間切れとなったが、項目は後に〔5〕に示す。尚次回までに「目的の除去」のアイディアを分類整理し、正攻法で理想システムを考えておくこととなった。

以上が11月12日までの進行状況である。以下「問題点と状況の明確化」、「目的の系列化」、「目的の除去」で得られた結果を参考に示し、最後に「おわりに」で結びとする。

〔3〕問題点と状況の明確化

テーマ名：平成維新実現の戦略（シナリオ）

の具体的絞り込み・・・抽象的？

解決したい事柄（必要性・問題点）の要点、背景、いきさつ：

1. 会員をふやす：減少傾向、数は力
2. 平成維新実現を目指す国会議員をふやす
3. 運動の個性の差別化
4. 活動会員の確保、増加
5. 日本の危機的状況の打破
6. 会の知名度向上
7. 中央集権構造から地方分権の推進
8. 市民の自主自立精神の確立
9. 良い国のイメージの確立
10. 市民の参画意識の喚起
11. 意識改革の啓蒙
12. 内外環境変化への対応
13. 最適な会の名称、運動のネーミング
14. 運動を引き継ぐべき若年層、特に学生の参加呼びかけ
15. 小さな政府の実現

問題を取り上げたきっかけ：

運動の停滞を憂い、その活性化のシナリオ作成のため、新BT思考が利用できるのではと大谷が提案し、海辺氏の解説を聞いた上で、他が賛成した。

問題解決の立場、体制および責任者：

平成維新・東京／新BT思考による戦略特別委員会委員長：大谷和夫。

委員：治田、杉原、板橋、望月、河登。

達成すべき最低目標：

1. テーマのシナリオの策定（含 運動のネーミング）